

# はじめに—村上海賊の城—

『“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島—よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—』が平成28年4月に「日本遺産」（文化庁認定）に認定されました。日本遺産とは、文化庁が平成27年度から創設した制度で、地域に点在する有形・無形の文化財群を、一定のテーマやストーリーの中で総合的に把握しようとする取り組みです。認定されたストーリーを構成する村上海賊関連の文化財は42件。村上海賊の海城、ゆかりの神社仏閣、伝統行事、そして郷土料理など、その種類はさまざまです。

このパンフレットは平成28年度刊行の『村上海賊三家の至宝』に次ぐ、日本遺産構成文化財紹介パンフレットの第2弾。テーマは『村上海賊の城』です。村上海賊の城と言えば、いわゆる「海城」と呼ばれる珍しい形態を特徴としています。いずれも当時の建物は残っていませんが、とりわけ小さな島全体を城郭化したタイプの海城で現在にその姿を留めている事例は、国内では類を見ず、世界的にも稀な城の形態です。近年飛躍的に進展した「海城」研究の成果をもとに、村上海賊の城の特徴を明らかにし、その魅力を紹介します。

平成29（2017）年9月 村上海賊魅力発信推進協議会

## Contents

◇はじめに—村上海賊の城—	1
◇日本遺産に認定されたストーリーの概要	2
◇最古の海城分布図	3
◇因島・向島の海城	4
◇俵崎城	6
◇甘崎城	8
◇務司城・中途城	11
◇来島城	12
◇能島城	14
◇村上海賊の城とは	16

### 【事業】

日本遺産魅力発信推進事業（文化庁支援事業）

### 【執筆】

田中 謙（今治市村上水軍博物館学芸員）・大上幹広（同学芸員）

### 【翻訳】

今治市国際交流協会

### 【編集】

村上海賊魅力発信推進協議会（事務局：今治市教育委員会事務局文化振興課内）

### 【お願い】

掲載写真の無断転載はご遠慮ください。

# “日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島

## —よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—

Geiyo Islands : The Stronghold of Japan's Greatest *KAIZOKU*—Memories of Murakami *KAIZOKU*—

### 日本遺産に認定されたストーリーの概要

戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業としました。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っています。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できます。

#### Overview of the proposal

During the Warring States Period, Luis Frois, a missionary, called the Murakami *kaizoku* “The Greatest *kaizoku* in all of Japan”. In contrast with ‘Pirates’ who mercilessly steal money and valuables from ships, Murakami *kaizoku* guaranteed the safety of sailing, and maintained the order in the sea. The remains of sea castles, which they built as operating bases, can be seen in the Geiyo Islands. By exploring the Geiyo Island between Onomichi and Imabari, you can experience how the Murakami *kaizoku* used their available land and resources to their advantage, and took control of sea routes in Seto Inland Sea.



#### 1 能島城跡 今治市 The ruins of Noshima Castle, Imabari City

14～16世紀に使用された村上海賊の代表的な海城。小さな島全体を城郭化している。

This seaside castle is a representative example of those built by the Murakami *kaizoku*. The castle occupied an entire small island, and was in operation from the 14th to 16th centuries.

#### 2 大山祇神社 今治市 Oyamazumi Shrine, Imabari City

村上海賊たちが崇めた古来より由緒のある神社。海賊たちが詠んだ「連歌」が奉納されている。

Oyamazumi Shrine served as the location where the Murakami *kaizoku* worshipped the local deities. They offered traditional linked poems, called *renga*, to the kami of the shrine.



#### 3 棕浦の法楽おどり 尾道市 Hōraku Odori at Muku-no-ura, Onomichi City

村上海賊が、出陣の時は戦いの勝利と隊士の安全を祈り、帰陣の際は勝利を祝うとともに戦没者の追悼を行ったという。侍らしい軽装に太刀、跳ぶような動作などが特徴。

When the Murakami *kaizoku* went to war, they danced at Muku-no-ura to pray for the victory and safety of the warriors. When they returned from war, they also danced to celebrate the victory and to mourn the war dead. This dance, called the Hōraku Odori, is performed using a series of jumping steps, and the performers dress in samurai-costume and carry a sword. This traditional art of the Murakami *kaizoku* is still performed today.

#### 4 白滝山（五百羅漢像）尾道市 Mount Shirataki, Onomichi City

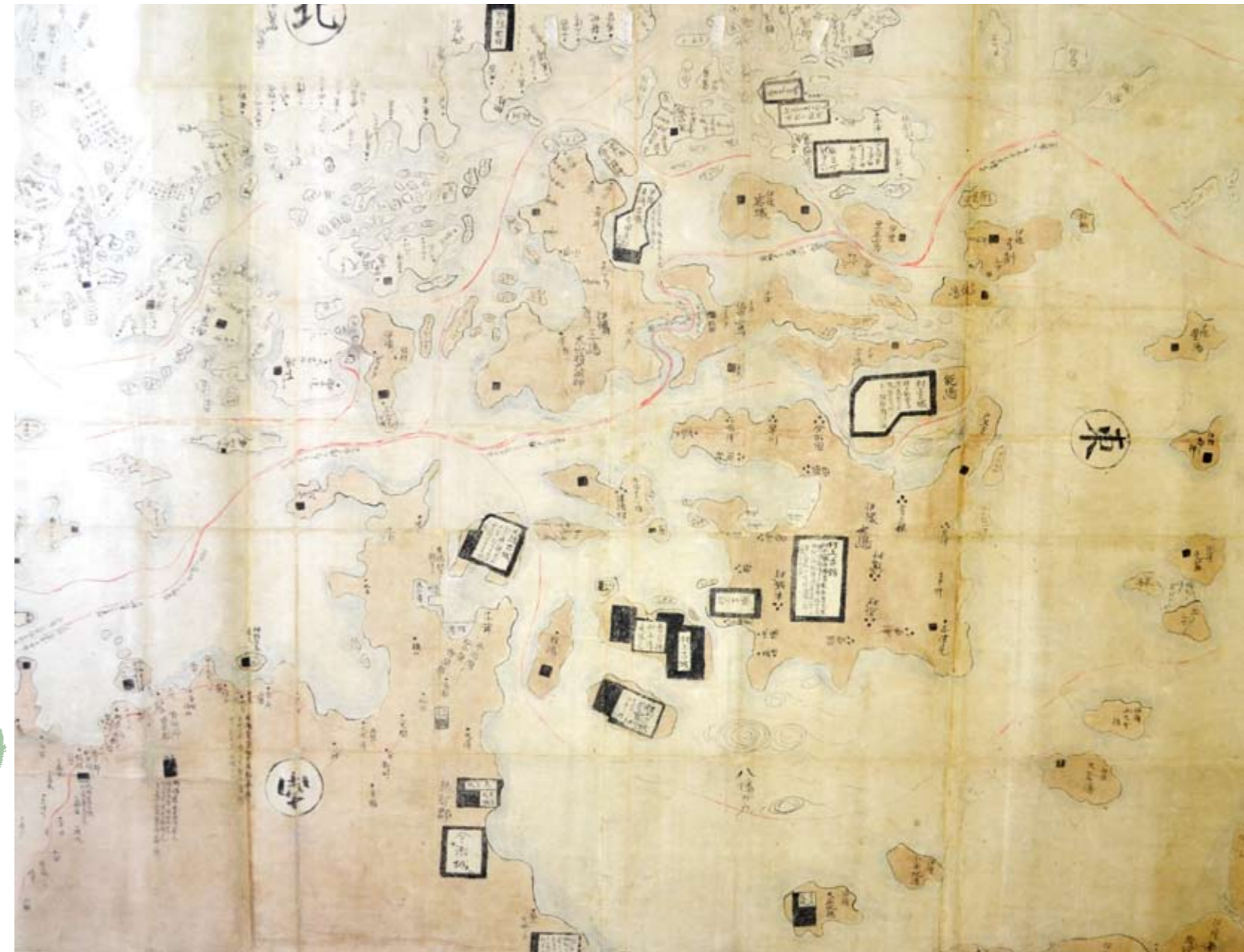
因島村上氏の村上吉充がこの山に観音堂を築き、江戸時代に石仏が置かれた。一体ずつ顔が異なる石仏は700体ほどあり、松林と岩石の自然に溶け込んで独特の雰囲気を出している。

Murakami Yoshimitsu, from the Innoshima-Murakami branch, built a temple on this mountain dedicated to the Bodhisattva Kannon. Later, in the Edo period, Buddhist stone statues were erected. These nearly 700 statues, whose faces are all different from each other, seem to blend into the surrounding pine trees and natural stones, creating a unique atmosphere.



### 主な構成文化財

#### ストーリーの舞台：芸予諸島とその周辺



伊予国嶋々古城之図（部分） 江戸時代中期 個人蔵

## 最古の海城分布図

松山藩の軍学者、野沢象水が描いたとされる最古の海城分布図。江戸時代中期の作とされています。古城跡には■印が付けられ、村上氏の関連城郭には村上古城と記されています。能島城、来島城、国分山城など著名な城には城主や由緒が記されており、伊予国だけではなく因島の青木城や、鞆城など因島村上氏の古城跡も見られます。江戸時代の人々が村上海賊の城の位置や歴史についてどのように認識していたかを推し測ることができる貴重な資料です。

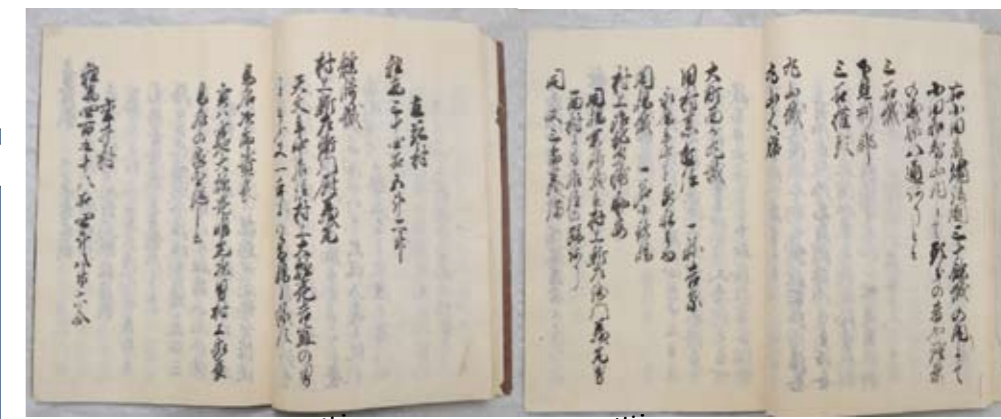


# 因島・向島の海城

因島村上氏は向島や因島に多くの城を築きました。岬や鼻、湾に面した丘陵上に築かれるのが一つの特徴ですが、背後の山城とセットで本拠地としているケースもあります。

因島村上氏の本城は時代によって移動すると言われています。初期の本拠地とされるのは長崎城（因島）。そして弘治元（1555）年の厳島合戦の恩賞として与えられ、本城としたとされるのは余崎城（向島）です。さらにその後、全盛期の当主、村上吉充は居城を青木城（因島）に移し、さらに長崎、余崎、青木などの連絡場所でもあり、戦国期に本城の役割を果たしたとされるのが、因島のほぼ中央に位置する山城、青陰城です。

因島村上氏の城に関する記述は、江戸時代の地誌などに多く見られますが、残念ながら村上海賊の時代の資料は多く残されていません。また青陰城跡でわずかに出土遺物が確認されているものの、ほとんどの城で学術的な調査が行われていないため、詳しいことはわかっていません。今後、日本遺産調査研究事業で、これらの城についても調査を進めていく予定です。

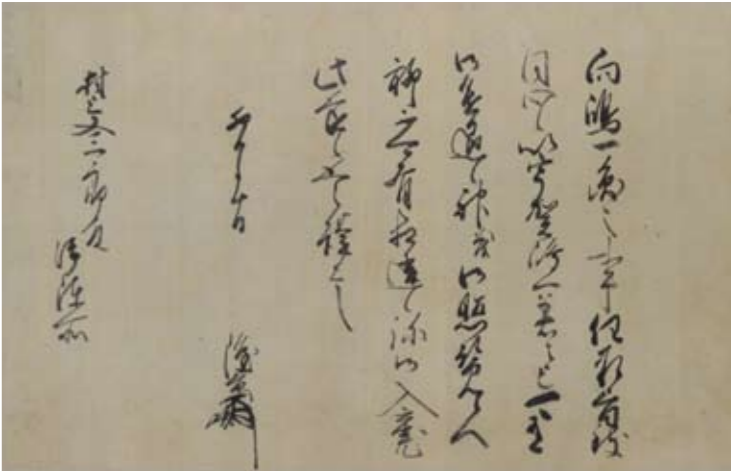


西備名区 79 巻 (左)・80 巻 (右)  
江戸時代後期 広島県重文 個人蔵・福山城博物館保管  
Letter from Kobayakawa Takakage  
福山藩の庄屋馬屋原重帯により書かれたもので、備後国に関する様々な情報がまとめられている。79巻には余崎城、80巻では岡島城が因島村上氏の城であったと伝えられている。



青陰城跡出土遺物 尾道市教育委員会保管  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City  
(上) 刀：年代不詳 (下：左から) 土師質土器片：15～16世紀  
瓦質土器：15～16世紀、開元通寶（唐銭：初鑄 621年）

宇賀島の件が着したら、向島を与えることを約束する  
御陣所  
村上又三郎殿  
卯月十日 隆景(花押)  
小早川隆景書状  
広島県重文『因島村上家文書』個人蔵・因島水軍城保管  
Letter from Kobayakawa Takakage



弘治元（1555）年の厳島合戦の前に、小早川隆景が因島村上氏の村上吉充に、向島を領地として与えることを約束した手紙  
In this letter, dated to before the battle of Itsukushima in 1555, Kobayakawa Takakage, a military commander of the Chūgoku region, promises the territory of Mukajima to Murakami Yoshimitsu.



1. 長崎城跡 広島県史跡 尾道市因島町土生  
The ruins of Nagasaki Castle, Onomichi City



2. 余崎城跡 尾道市向島町立花  
The ruins of Yosaki Castle, Onomichi City



3. 青木城跡 広島県史跡 尾道市因島町重井  
The ruins of Aoki Castle, Onomichi City



4. 青陰城跡 広島県史跡 尾道市因島町中庄  
The ruins of Aokage Castle, Onomichi City



5. 岡島城跡 尾道市向島町岡島  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City

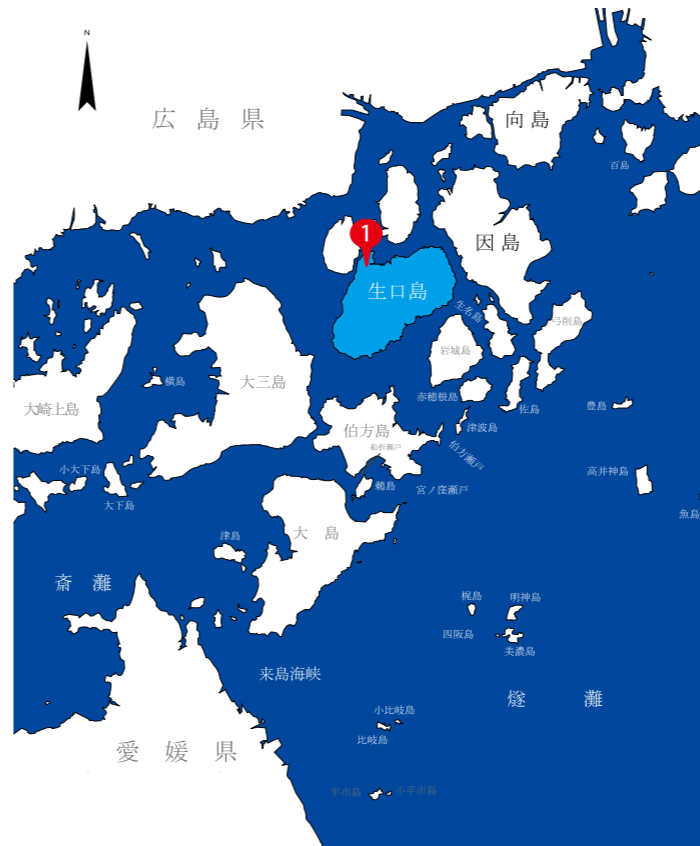


# 俵崎城 村上海賊時代の生口島の海城

【場所】 尾道市瀬戸田町瀬戸田 【年代】 14世紀後半～16世紀頃 【城主】 生口氏

俵崎城は、中世には直下が海であり、入江に突き出た鼻の頂部に築られました。能島城や来島城のような島の城とは異なり、土塁や堀切などの防御施設があります。一方、土遺物が比較的豊富な点は島の城と同様の特徴で、その年代は14世紀後半から16世紀後半、盛期は16世紀と考えられます。土塁や堀切もこの頃の遺構とされます。

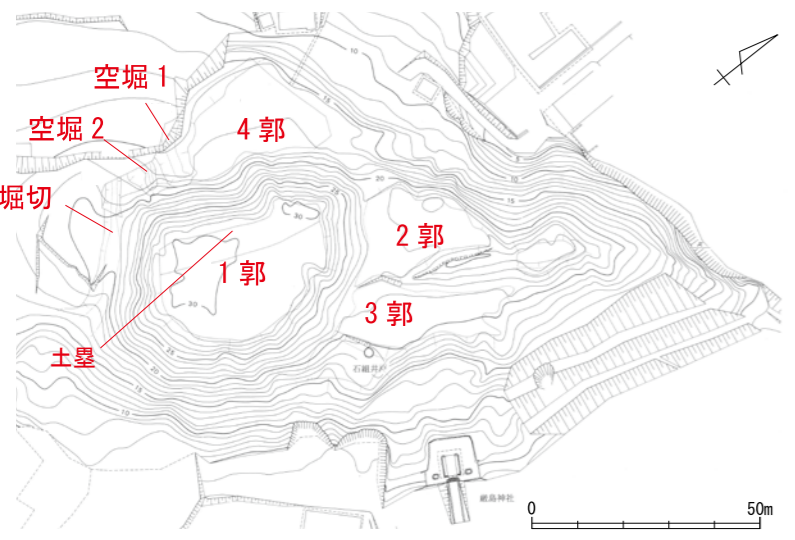
城主と考えられている生口氏は、天正4（1576）年の織田信長方との海戦である第一次木津川口合戦で、村上海賊とともに毛利方の武将として名を連ねた海の勢力です。当時、尾道に次ぐ港町であった瀬戸田を管理していました。



発掘調査の様子（1郭）  
（広島県教育財団埋蔵文化財室提供）



1郭の土塁の断面（残存高0.6～1.4m）  
（広島県教育財団埋蔵文化財室提供）



俵崎城跡平面図

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編 1998より作成  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City

俵崎城跡出土 貿易陶磁器  
広島県教育財団埋蔵文化財室保管  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



俵崎城跡出土 瓦質土器鍋  
広島県教育財団埋蔵文化財室保管  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



俵崎城遠景  
（広島県教育財団埋蔵文化財室提供）

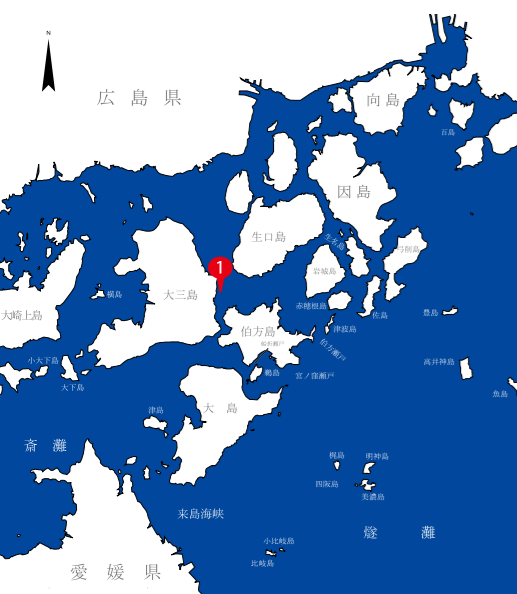


# 甘崎城 村上海賊の城から藤堂高虎の城へ

【場所】 今治市大三島沖の古城島 【年代】 15世紀～17世紀初頭頃  
【城主】 今岡氏（能島村上氏関係）？→村上吉継（来島村上氏）→藤堂氏

甘崎城は、小島全体を城郭として利用した海城で、海の難所である鼻栗瀬戸を押さえる位置にあります。古文書に初めて姿を現すのは、天文10（1541）年。8月12日付の大内義隆感状（『安芸白井文書』）には「甘崎要害」の文字が見られます。出土品の年代はもっと古く、15世紀代まで遡ります。関ヶ原合戦後、今治藩に入った藤堂氏によって改修され、来島村上氏の元家臣たちが在城したという記録もあります。慶長13（1608）年、藤堂高虎が伊勢に国替えになった際に、廃城になったとされます。

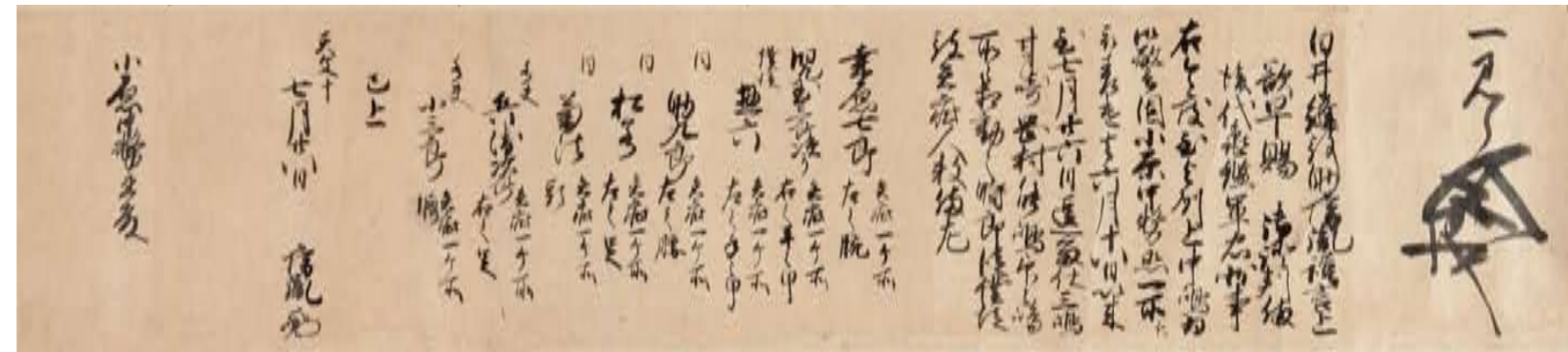
潮が引いて現れる岩礁には、村上海賊時代の船を繋ぐ施設である柱穴（岩礁ピット）や、藤堂時代に築かれたであろう石垣を見ることができます。16世紀を中心とした生活の土器や陶磁器、また16世紀末～17世紀初頭頃の瓦も多く出土しました。



沖に向かって一列に並ぶ岩礁ピット  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



対岸から甘崎城跡を望む  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



一見了、  
（大内義隆）  
白井縫殿助房胤謹言上、  
欲早賜 御証判備・  
後代龜鑑軍忠状事、  
右、今度至与州上中嶋、為  
御警固小原中務丞一所亡  
被差遣、去六月十八日以来  
至七月廿六日逗留仕、三嶋・  
甘崎・岡村・能嶋・印之嶋  
所々相動之時、郎從・撰從  
被矢疵人数備左、  
桑原七郎 矢疵一ヶ所  
兒玉三郎次郎 矢疵一ヶ所  
撰從 惣六 矢疵一ヶ所  
同 助九郎 矢疵一ヶ所  
同 松若 矢疵一ヶ所  
同 菊若 矢疵一ヶ所  
水夫 兵衛次郎 矢疵一ヶ所  
水夫 小三郎 矢疵一ヶ所  
已上、  
天文十 七月廿八日 房胤（花押）  
小原中務丞殿

白井房胤手負注文 愛知県指定『安藝白井文書』 西尾市岩瀬文庫蔵 Letter from Fusatane Sirai  
天文10（1541）年、大内氏が芸予諸島を攻撃した時に、大内氏の水軍として活動していた白井氏が、家臣の負傷状況を記した報告書。それを確認した大内義隆の花押（サイン）が書かれている。この海戦では、大三島、甘崎、岡村、能島、因島が攻められていることがわかる。



甘崎城跡出土遺物 愛媛県歴史文化博物館保管 Letter from Fusatane Sirai  
村上海賊時代の生活に使われた容器類が多く出土した。



大内義隆感状 愛知県指定文化財『安藝白井文書』 西尾市岩瀬文庫蔵  
Letter from Fusatane Sirai  
天文10（1541）年に、甘崎城を攻撃した時に、白井氏の家臣が負傷したことを大内義隆が賞した手紙。

去六月廿四日、至甘崎要害動之時被  
矢疵左足之田、隆名  
注進到来、所令感悦  
之状如件、  
天文十年八月十二日（大内義隆）  
白井縫殿助殿

六月二十四日に甘崎城を攻めた時に、左足に矢で傷を負うほどに戦ったことは、喜ばしいことです。

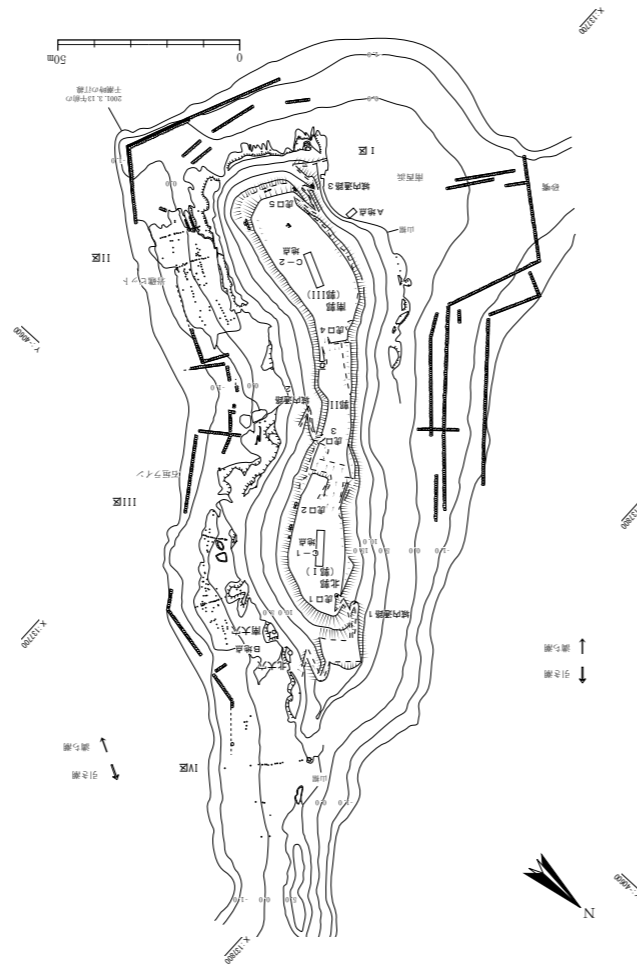


# 務司城・中途城 能島村上氏の海城

【場所】 今治市武志島・中渡島 【年代】 15～16世紀頃か 【城主】 能島村上氏

務司城は、小島全体を城郭として利用した海城で、来島海峡の東側を押さえる位置にあります。史料上の初見は永禄11（1568）年とされます。発掘調査は行われていませんが、採集された遺物の年代は15～16世紀です。廃城は天正13（1585）年で、隣接する中途城とともに能島村上氏は下城を求められています。他の島の城と同様に、防御施設は切岸が部分的に見られる程度で総じて乏しく、自然地形を利用して最小限の平地を作り出した構造であると指摘されています。対岸の大島には甘崎城と同様に「水場」という地名が残っています。水場から運ばれる水や物資によって、海賊たちの城の生活が支えられていたのでしょう。

中途城は、能島村上氏の城とされ、天文15・16（1546・1547）年の周防大内氏による芸予諸島侵攻の際に、海戦の舞台となっていたことがわかります。発掘調査は行われていませんが、後世に鉄塔、灯台、信号機などが設置されたため、遺構の残存状況はよくわかっていません。隣接する務司城と同様に天正13（1585）に能島村上氏が下城したと考えられています。



甘崎城跡平面図  
愛媛県教育委員会編 2002より作成  
(左の絵図に方位をあわせ天地を逆にして)  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City

浅野文庫「諸国古城之図」伊予 天崎 広島市中央図書館蔵・写真提供 江戸時代前期

The ruins of Okajima Castle, Onomichi City

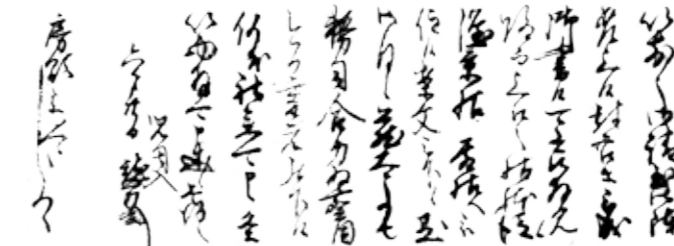
旧広島藩浅野家に伝わる甘崎城跡の絵図で、甘崎城が石垣で囲まれており、岩礁の柱は描かれていないことがわかる。



潮が引くと姿を現す近世の石垣  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



来島海峡に築かれた務司城・中途城遠景  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City  
中途城跡  
務司城跡  
水場

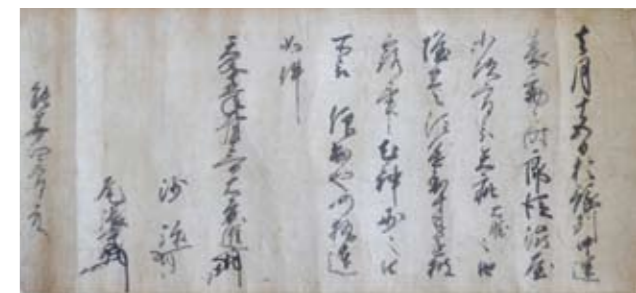


児玉就方書状 『嚴島神社野坂文書』

嚴島神社蔵・広島県立文書館写真提供 Letter from Narikata Kodama

毛利氏配下の警固衆である児玉就英が援軍として、務司城に向かったことが記されており、務司城付近の海上で合戦が行われていたであろうことがわかる。

以前之御請 至御陣  
差上候、対吾等被成  
御書候、可有御拜見候  
隨而上口之様狀、從  
降景様 殿様へ被  
仰候案文被下候、懸  
御目候、殿大事者  
務司合力為誓固、  
今日爰元龍下候、  
何及社參可申候案、  
以面拜可申述候、恐々謹言、  
六月廿日 兒玉入 (花押)  
房頭參人々  
申給へ



大内義隆奉行人連署奉書

『山野井文書』 個人蔵 Letter from Fusatane Sirai

天文15（1546）年の中途城付近の海上での合戦のことが記されており、当時大内氏の水軍として活動していた能美氏の家臣が負傷したとの報告を受け、大内義隆がその武功を賞したことを大内氏家臣が伝えている。

去月十五日、於予州中途  
表動之時、郎從渡屋  
小次郎矢疵在野之由、  
降豊注進到来遂披  
露畢、尤神妙之由、  
所 仰出也、仍執達  
如件、  
天文十五年九月十二日 右京進 (花押)  
沙弥 (花押)  
尾張守 (花押)  
能美四郎殿



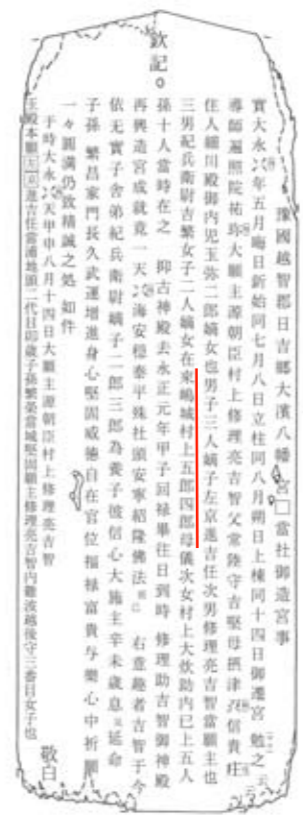
# 来島城 来島海峡を睨む村上海賊の活動拠点

【場所】 今治市波止浜沖 【年代】 15世紀～17世紀初頭頃（関ヶ原合戦後）か

【城主】 河野氏、来島村上氏

来島城は、小島全体を城郭として利用した海城で、海の難所である来島海峡の今治平野側を押さえる位置にあります。古文書に初めて姿を現すのは、宝徳3（1451）年。過去の発掘調査で出土した遺物の年代とも概ね合致します。伊予の守護、河野氏の支配下の城として、当時の争乱の舞台になっていました。来島村上氏が来島城に在城していたことを示す確実な史料は、城下町である大浜地区に鎮座する大濱八幡大神社に残された大永4（1524）年の棟札です。

来島城も能島城・甘崎城・務司城と同様に対岸に「水場」があり、城の岩礁部には岩礁ピット、自然地形を活かした郭、年代は不明ですが立派な石垣が一部に残されています。十分な発掘調査は行われていないので、城の実態についてはまだ多くの謎があります。一方、「来島落城」と記された天正11（1583）年の古文書（『石谷家文書』）が近年新たに発見されるなど、研究の進展が期待される城郭の一つと言えます。



大濱八幡宮造宮棟札

大永4（1524）年 大濱八幡大神社蔵 Letter from Fusatane Sirai

「嫡女在来島城村上五郎母儀」と記された大濱八幡大神社の棟札は、村上氏が来島城にいたことを示す最も古い資料である。



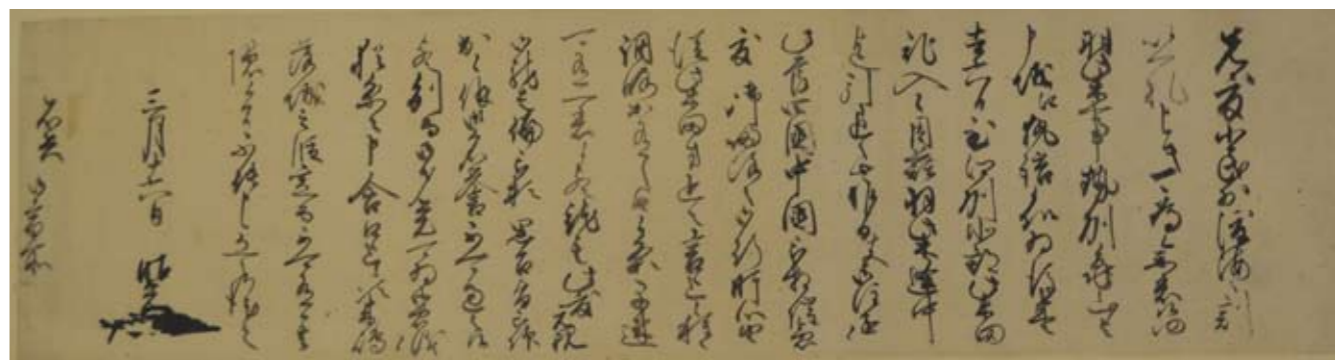
沖へ向かって立て一列に並ぶ岩礁ピット  
愛媛県教育委員会提供  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



来島城跡遠景  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



来島城跡平面図  
愛媛県教育委員会編 2002 より作成  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



先度小民少渡海之刻、  
以一札申候キ、可為参着候、仍  
羽柴事、勢州龜山与  
申城江執話候処、為後巻  
去六日至江州北部柴田  
乱入候、因茲羽柴途中  
迄引退之由、昨日十五日御注進候  
此節四国・中国被相催、急  
度 御歸洛之御行肝心由、  
從柴田方追々言上候、種々  
調略等有之由候条、早速  
可有一着候歟、就其此度元親  
御馳走偏被頼 思召旨被仰  
出候、併御名譽不可過候  
歟、別而御才覚可為御忠義候、  
猶条々申合口上候、次来嶋  
落城之段、定而不可有具  
隠候間、不能申候、恐々謹言  
三月十六日 昭光（花押）  
（石谷頼辰）  
御宿所

真木島昭光書状 『石谷家文書』 林原美術館蔵 Letter from Akimitsu Makishima  
天正11（1583）年に、足利義昭重臣の真木島昭光から、土佐の長宗我部元親のもとにいた石谷頼辰に出された手紙で、前年から毛利・河野氏に攻撃されていた来島城が落城したことが伝えられている。

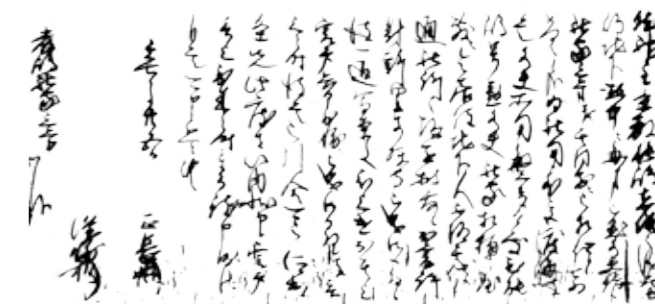


# 能島城 多彩な海上活動の拠点

【場所】 今治市宮窪町沖の能島・来島 【年代】 14世紀中頃～16世紀末頃  
【城主】 能島村上氏

能島城は、小島全体を城郭として利用した海城で、海の難所である宮ノ窪瀬戸を押さえる位置にあります。1547（天文16）年の文献に「神主景教能嶋在城之儀」（「巖島野坂文書」）と出てくるのが、能島城の史料上の明確な初見とされ、棚守景教（巖島神社神主）が能島に在城したことがわかります。近年の発掘調査では、安定的に出土する遺物の年代が14世紀中頃まで遡り、能島村上氏の史料上の登場と概ね合致することが明らかになりました。

かつての研究では、能島城に居住性はなく、詰めの城や出城的役割に過ぎないと想定されてきましたが、発掘調査により多くの建物跡や生活容器が発見されたことにより、海賊たちの生活の場であったことがわかりました。村上海賊は平時には、通行許可証を発行し、あるいは海賊を船に乗せて水先案内をさせることで瀬戸内海の秩序を保ってきました。能島城は、戦時への備えはもちろんのこと、平時に展開した多彩な海上活動の拠点でもあり、活動に従事する人々の生活の場でもあったと考えられます。



就神主景教能嶋在城之儀、当嶋地下惣中ニ、毎月被懸水夫銭候、社家三方度其同前ニ被相催候、可為如何之候哉、為社用外宮渡海、彼是水夫所用繁多候処、至能嶋号敷水夫、社家相拘候屋敷ニ令居住地下人、不随其催之通、社訴之趣遂披露候、於爰許對新里若狭守被成御尋候、彼一通写・案文被上遣候、於其上完戸兵部少輔ニ被成御尋候、彼言上之時、彼是被引合可被仰出候条、先此度者以内状申候、完戸言上到来之時、重而致申沙汰自是可申候、恐々謹言、  
壬七月廿五日 正弘地（花押）  
隆輔（花押）  
巖島社家三方御報

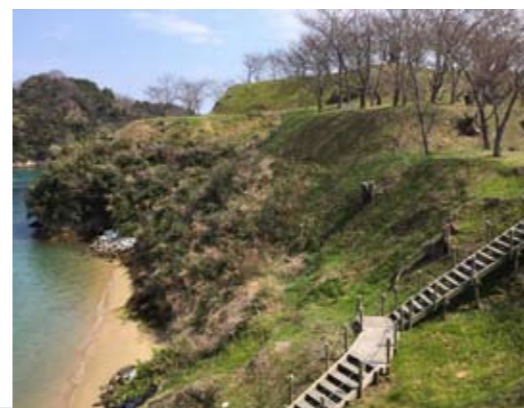
能島城に大内氏によつて巖島神社の神主となつた杉景教がいます。この神主がそれまであな方か賦課してたのと同様の負担を現地（巖島）で課してトラブルとなつたとの、大内氏への訴えを受け付けました。それについては大内氏のほうで対応していただきますので追つて連絡します。

## 大内氏家臣連署書状 『巖島神社野坂文書』

巖島神社蔵・広島県立文書館写真提供 Letter from Akimitsu Makishima  
天文16（1547）年のこの手紙の冒頭には、能島城に巖島神社の神主がいることが記されている。能島城が城郭として確かに記されている初めての資料である。



能島城出土の武器・武具のパーツ  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



能島城の郭と船だまり  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



文化的側面を示す出土品  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



掘立柱建物跡  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



岩礁ピットと海蝕台  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



能島城跡遠景  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



能島城出土の生活容器  
The ruins of Okajima Castle, Onomichi City



# 村上海賊の城とは

発掘調査が行われた能島城、来島城、甘崎城からみた村上海賊の城の特徴を列挙し、本パンフレットのまとめにかえたいと思います。今後、調査研究が進めば、新しい事実が明らかになると考えられますので、以下に述べる特徴は、上記の三城を中心とした現時点での見解であることを明記しておきます。

- ・村上海賊の城は、14世紀中頃から15世紀に相次いで築城された。
- ・甘崎城は近世城郭化されるが、能島城など多くは16世紀末頃に廃城になったと考えられる。
- ・島の城、岬（鼻）の城、海を望む山城など様々なタイプの城がある。
- ・とりわけ小島全体を城郭化したタイプは全国的にも特異である。
- ・そして海岸部に最大の特徴がある。
  - ①船だまり（船かくし）がある。
  - ②干満に応じた船の着岸や繫留用の施設（岩礁ピット）を整備している。
  - ③海岸をめぐる通路（海蝕テラス）や多目的のヤード（海岸の埋め立て）を整備している。
- ・島の対岸には「水場」がある。
- ・土塁や堀切といった城の防御施設は簡素であり、海に対して開放的な構造である。
- ・海戦の舞台になっていることは文献でわかるが、主戦場は海上であった可能性がある。
- ・生活の道具が豊富に出土し、とくに能島城の郭では何度も建て替えられた建物跡が発見された。
- ・中国などで生産された陶磁器や、備前焼など国内の流通品が多く出土する。
- ・村上海賊の城（島の城）は、合戦の備えである以上に、平時の海上活動の場であり生活の場であった。

本パンフレット作成にあたり下記の機関から多大なご指導・ご協力を賜りました。記して感謝の意を表します（敬称略）。また多くの個人の方からも貴重な資料を出品いただき、また写真提供など多大な協力をいただきました。氏名の明記は控えますが、心より感謝の意を表します。

敵島神社 今治市国際交流協会 愛媛県歴史文化博物館 大濱八幡大神社 西尾市岩瀬文庫 林原美術館 福山城博物館

## 村上海賊の城

